

「子育てを通して、親の役割を学び合う」

宮古地区家庭教育セミナー開催される

「子どもの心を支える家族の絆」をテーマに掲げ、教育の原点は家庭、子どもの教育の土台が家庭教育に負う部分が大いことを基本認識として継承されてきた家庭教育セミナーも13回を迎えた。

10月18日(土)市民文化会館中ホール満席の参加者を得て、宮古地区セミナーが開催された。県立児童館いわて子どもの森館長の吉成信夫氏の基調講演の後、家族や学校や地域社会との関わりを通して、子どもの特技や個性を伸張させ、将来の活躍が期待される人材を育成する家庭の役割、親の役割を見つめなおそうと熱心なパネルディスカッションが行われた。

なお本年度のもう一地区、盛岡地区での開催は東北ブロック研究大会第7分科会を兼ねて開催された。また21年度は久慈地区と和賀地区で開催予定である。



宮古地区セミナー実行委員長 鳥居 昌子

家庭教育セミナーを終えて

今回のテーマは「いま、子どもの心を支える家庭の絆」。県立児童館いわて子どもの森館長の吉成信夫氏の基調講演を頂きました。私たち大人が、親として子どもたちに何を伝えるべきか、またパネルディスカッションを通して、家庭の教

れしました。一人ひとりが自分の「生き方」に誇りを持ち、進んで学び、考えることが大切だと思います。

最後に、このセミナーを開催するにあたり、各単位PTAの母親委員の皆様をはじめ、たくさんの方の関心とご支援、ご協力をいただきましたこと、心か



21年度開催予定地区 久慈地区母親委員長 吉田 祥子

地域力を感じられるセミナーを目指して

宮古地区セミナーの成功をお祝いします。私は今年度より久慈地区母親委員を務めています。生まれ育った地で、親として何ができるのか、大人として恥じることの無い姿を示すことが出来ているのか悩みながらの毎日ですが、この度、母親委員会活動に参加させて頂き、大きな力を頂いている思いが致します。『子どもの言葉に耳を傾け、心

ら御礼申し上げます。本当に有難うございました。



携帯所有や使い方に 具体ルールを



「携帯電話に関わる四者懇談会」開催

携帯電話やインターネットを介したイジメや有害情報に起因するトラブルが多発し、子どもの心や生命を脅かす悪質な事件が後を絶たない。家庭、学校、地域、行政とそれぞれの立場から対応が講じられているが、必ずしも子どもや親の意識への浸透が十分とはいえない状況にある。7月に県PTA連合会では県警、県教委、県中学校長会と四者意見・情報交換を行い、対応のあり方を検討し、課題共有と危機管理意識の喚起の必要性を確認した。その中で今春、ある小学校PTAの新入生対象調査の結果、保護者の過半数が携帯電話を持たせていたとの報告もあった。中、高中生への指導が主で小学生への啓蒙・指導対応は後手の状態であり、PTAとしても使い方やルールで踏み込んだ議論を深めていくべき段階である。

欧米では携帯電話は通話機能中心であるのに対し、日本ではインターネット接続端末として普及していることから派生する弊害として「出会い系サイト」や「裏サイト」などの犯罪に巻き込まれたり、イジメに繋がっていた例や人間関係に問題が生じ、心や生命を脅かす原因となった例もある。県内の中学校では「学校生活では不必要、学校には持ち込みは原則禁止」とし、一定の歯止め効果は挙げている。発達段階に即し「約束を守れないときはダメ」といった具体的な約束が有効。子どもを守り、育てるのは「家庭の役割」とは言え、社会全体の責任である。「人としてのフィリタリング」「人としての在り方」などをキーワードに、家庭への働きかけの声をひととき大きくして各種の研修機会に向くなど、「足」を使つての繰り返し啓蒙活動が必要である。携帯電話の普及とその所持低年齢化に伴うリスクの啓蒙、「持つ前指導」の浸透が期待される。